

タイトル: 珈琲ダイアリー 作家と殺し屋

シーン 1: 都内広場

場所: 賑やかな広場に位置する仁のキッチンカー

描写: 風見仁が珈琲を淹れている。広場には忙しそうに行き交う人々の中、静かに一杯の珈琲を楽しむ人々もいる。

会話:

- 仁: 「次のお客さん、どうぞ！」
- 琴子: 「こんにちは。珈琲一杯ください。」
- 仁: 「かしこまりました。お客さん、お近くの方ですか？」
- 琴子: 「ええ、マンションがこの近くにあるの。それにしても、いい匂いね。」
- 仁: 「ありがとうございます。…あれ？あなた、もしかして彼岸花琴子さんですか？」
- 琴子: 「そう、私は彼岸花琴子よ。」
- 仁: 「本当ですか！感激です！隙間時間に小説を読んでいるんですが、あなたの本、いつも読んでます！」

描写: 琴子が微笑みながら、仁の珈琲を受け取る。仁の目は興奮で輝いている。

シーン 2: 幸平の登場

場所: 仁のキッチンカーの前

描写: 寺田幸平が仁のキッチンカーに近づく。陰気な雰囲気漂わせながらも、特に目立たない風貌。

会話:

- 幸平: 「こんにちは、珈琲一杯いただけますか？」
- 仁: 「いらっしゃいませ。最近よくお見かけしますね。お仕事ですか？」

- 幸平:「ええ、彼岸花琴子先生の担当編集兼護衛をしています。彼女に脅迫文が届いているんです。なので、警戒のためにこの辺を見回っているんですよ。」
- 仁:「それは大変ですね。でも、どうして脅迫文が？」
- 幸平「わかりません。一応、警察にも相談したのですが、先生に万が一の事があったら考えると、居ても立っても居られなくて、それで」

描写: 幸平は神経質そうに周囲を見回しながら、珈琲を受け取る。

シーン 3: 幸平の焦り

場所: 幸平のアパート

描写: 幸平が自室で琴子の小説を読み返し、主人公の描写と自分自身の手口の類似に驚愕している。

モノローグ:

- 幸平(心の声):「こんなに詳しく…まるで俺のことを知っているかのように書かれている。もし世間にこの手口が広まれば、俺は…」

描写: 幸平の顔が緊張で歪む。彼の手には琴子の小説が握られている。

シーン 4: 再び来店

場所: 再び仁のキッチンカー

描写: 琴子が再び仁のキッチンカーに現れる。仁が心配そうに琴子を見つめる。

会話:

- 仁:「琴子さん、実は…あなたに脅迫文が届いているそうです。」
- 琴子:「知っているわ。でも、大丈夫。私は怖くないわ。」
- 仁:「え、怖くないんですか？」
- 琴子:「本物の殺し屋に狙われるなんて、こんなに面白いことはないわ。」

描写: 仁は冷や汗をかきながら、琴子の大胆な反応に驚愕する。

シーン 5: 琴子殺害計画

場所: 琴子のマンションの前

描写: 幸平が琴子を襲おうとする瞬間、仁が現れる。

会話:

- 仁: 「やめろ！ 琴子さんを放せ！」
- 幸平: 「くっ…！」

描写: 激しい格闘戦が繰り広げられる。仁の格闘技の腕前が光る。最終的に仁が幸平を制圧する。

会話:

- 琴子: 「ありがとう、仁君。あなた、なかなかやるじゃない。」
- 仁: 「いや、琴子さん。無事で良かった。でも、この人はどうするんですか？」
- 琴子: 「ふふ、彼には小説のアドバイザー兼家政婦として働いてもらうわ。」

描写: 幸平は拘束され、琴子の元で新たな役割を担うことに。仁は再び旅に出る準備を始める。

エピローグ

場所: 仁のキッチンカー

描写: 仁が再びキッチンカーで旅立つ準備をしている。琴子と幸平が見送る。

会話:

- 琴子: 「またどこかで会いましょう、仁君。」
- 仁: 「はい、また会いましょう。」

描写: 仁のキッチンカーが静かに発進し、新たな冒険へと向かう。琴子と幸平はその後ろ姿を見送りながら、互いに微笑む。

ナレーション:

- 仁(心の声):「こうして、僕の旅は続く。新たな出会いと冒険を求めて…。また新たな夢探しの旅に出る。」

描写: キッチンカーが遠ざかり、物語は静かに幕を閉じる。